



聖隷クリストファー大学大学院

SEIREI CHRISTOPHER UNIVERSITY GRADUATE PROGRAMS

2024

隣人愛と知の技で
共に生きる社会の実現へ

[博士前期課程] [博士後期課程]

■ 看護学研究科 ■ リハビリテーション科学研究科 ■ 社会福祉学研究科

生命の尊厳と隣人愛

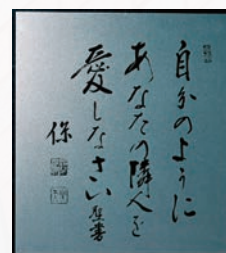
「隣人愛」とは、「自分のようにあなたの隣人を愛しなさい」という聖書の教えに示された愛の心です。聖隷学園は、創立以来この隣人愛と生命の尊厳を基本理念として、保健医療福祉分野の専門職の育成に取り組んできました。

その原点は、1930年に浜松のクリスチャンの若者たちが建てた結核患者のための小さな病舎にさかのぼります。目の前で苦しんでいる人のために、自分自身が感染するかもしれないという状況のなかで無償の愛を捧げたこの行いが、今日、日本有数の医療・福祉・教育集団となった聖隷グループのすべての事業の始まりなのです。

混迷する現代社会のなかで、人と共にあり、その不安や苦痛、悲しみを理解し、共に生きることを人生の喜びとする。聖隷クリストファー大学では、先人たちによって示された愛と奉仕の精神を受け継ぎ、地域に貢献し、国際社会においても活躍できる専門職を育成しています。

長谷川 保 直筆のレリーフ(聖隷歴史資料館内)

聖隷の創立者の一人、長谷川保は聖隷福祉事業団の理事長、会長、聖隷学園の理事長、学園長を歴任。生涯を通じて無私・無欲を貫き、現在の聖隷の姿「医療」「福祉」「教育」の骨格づくりと方向付けを行いました。



本学大学院は、建学の精神であるキリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」に裏付けられた人間性の上に、高度の専門的な知識と技術を備えた高度専門職業人、研究・教育者の育成と、アジアを中心とした保健医療福祉の教育研究の拠点形成をめざしています。

博士前期課程では、倫理性と広い視野に立った学識、研究と実践の能力を有し、組織のリーダーとして活躍し得る、実践的な高度専門職業人を育成します。また博士後期課程では、より高度の専門性を基に自立した研究と学術活動を行い、学問分野の発展を担うとともに、国際的にも活躍し得る研究・教育者を育成します。

大学院生の皆さんが、保健医療福祉の未来を担う創造的かつ革新的な知の創造と技術の開発をめざし、また高い倫理性を備えた高度専門職業人、研究・教育者に成長されることを願っています。



聖隷クリストファー大学
学長 大城 昌平

建学の精神・学長からのメッセージ	P2
大学院の目的・大学院の構成	P3
学びの4つの特色	P4
看護学研究科	P6
リハビリテーション科学研究科	P11
社会福祉学研究科	P15
研究の流れ(3研究科共通)	P18
TOPICS・アクセス	P19

〈ホームページ紹介〉

大学院ホームページに、カリキュラムや履修方法、時間割、入試日程などを掲載しています。



大学院の目的

聖隷クリストファー大学大学院は、建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づき、看護学、リハビリテーション科学、社会福祉学の、高度かつ専門的な理論および応用を教授研究し、深奥な学識と研究能力を養い、保健医療福祉に関わる専門教育の向上・発展に寄与するとともに人々の健康・安寧と福祉に貢献することを目的とする。

(大学院学則第1条)

大学院の構成

取得できる学位

- 博士前期課程 修士(看護学・リハビリテーション科学・社会福祉学)
- 博士後期課程 博士(看護学・リハビリテーション科学・社会福祉学)

看護学研究科	分野	領域	リハビリテーション科学研究科	分野	領域
	看護学	基礎看護学 地域看護学 老年看護学 慢性看護学 がん看護学 助産学※2		看護管理学 在宅看護学※1 精神看護学 急性看護学 ウイメンズ・ヘルス看護学※2 小児看護学	理学療法学 作業療法学 言語聴覚学
			社会福祉学研究科	分野	領域
			社会福祉学	社会福祉学	社会福祉・ソーシャルワーク 介護福祉※3 子ども家庭福祉

※1 博士後期課程は地域看護学

※2 博士後期課程はリプロダクティブ・ヘルス看護学

※3 博士後期課程は高齢者福祉

「隣人愛」豊かな実りを携えて

本学の創立は1930年5月1日です。長谷川保を中心とするキリスト者たちの篤い祈りの中から生み出された大学です。聖隷学園の寄附行為および大学院学則に、本学の教育が聖書(キリスト教)の教えに立脚していることが明記されています。

5号館1階の聖隷歴史資料館正面に、「弟子の足を洗うキリスト(F・M・ブラウン)」と題された聖画があります。新約聖書の「ヨハネによる福音書13章」に基づいた聖画です。「最後の晩餐」の記事に、主イエスが自らたらいに水を入れ、弟子たちの足を洗った場面が描出されています。神の子であるイエスが、奴隷のようにぬかずいて弟子の足を洗う姿に、隣人愛の模範を見ることができます。

創立者たちはこのイエスの生き方に倣う「聖なる神の奴隷」として、今日に至る諸事業を創成してきました。

「クリストファー(Xριστόφορος=Christ-bearing)」という名称は、3世紀半ばの伝説的な殉教者の名前で、「キリストを運ぶもの・担うもの」という意味を有しています。

キャンパスには、クリストファーが気づかないうちに幼子イエスを背負い続けたように、キリストの愛を身に纏って、隣人愛を実践して行けという、創立者たちの祈りが今も響いています。

皆さんの研究は、「人類の健康と福祉に寄与する」ことが求められます。本学の教育理念に基づいた研究の成果が、保健医療福祉の領域に良き実を齎すよう願っています。



聖隷学園宗教主任
キリスト教センター長
社会福祉学研究科 教授

永井 英司



クリストファーのモザイク
タイルレリーフ(3号館1階)



キリスト教センター

< 学びの4つの特色 >

1

働きながら
学べる



2

キャリアアップ
につながる学び



3

充実した
学修・研究環境



4

学びを支える
サポート体制



特色

1

働きながら学べる

本学では、有職者の方が休職あるいは退職することなく在職のまま就学できるよう、体制を整えています。

有職者の方でも
無理せず学べる
コース展開

通常より長い期間をかけて修了する「長期在学コース」

博士前期課程は2年間の課程を3年間で、博士後期課程は3年間の課程を4年間で修了する「長期在学コース」を設けています。

この制度により入学を希望される場合は、出願時に申し出が必要です。

夜間・土曜日を中心としたカリキュラムと遠隔システム

講義・研究指導は夜間や土曜日など、可能な限り有職者の方が受けやすい時間帯に設定しています。また、講義形式の授業を遠隔システムにより受講できる機会も設けています。

受講しやすい
時間帯設定と
サポートシステム

<授業時間>

月・火・木・金曜日	
7時限目	18:20~19:50

水曜日	
6時限目	18:20~19:50

土曜日	
1時限目	9:00~10:30
2時限目	10:40~12:10
(昼休み)	12:10~13:00
3時限目	13:00~14:30
4時限目	14:40~16:10
5時限目	16:20~17:50

特色

2

キャリアアップにつながる学び

看護学研究科博士前期課程の「高度実践看護コース」では、6領域において専門看護師を育成しています。また、看護管理学領域での学びにより、認定看護管理者の資格を得ることができます。

リハビリテーション科学研究科博士前期課程には「教育学コース」を設け、教員や管理職をめざす方を支援。

社会福祉学研究科では職場での課題解決のために進学する方が多く、大学院生は専門職としての力をさらに高めています。



保健・医療・福祉施設に囲まれた学修環境

聖隷グループは、社会福祉法人聖隷福祉事業団をはじめとする複数の法人からなり、国内外の300カ所以上で保健医療福祉・教育施設を運営しています。大学周辺には、20以上の医療・福祉施設が集まっていることから、施設との連携・協働により、研究活動を進めることができます。また、聖隷グループの総合病院・施設において第一線で活躍している医師や専門職者が担当する講義や演習もあり、最新の情報に基づいた研究を進めることができます。

研究科の枠を超えて学ぶ共通科目

現場において緊密な連携・協働が求められる、3研究科の大学院生が共に学ぶことができる共通科目を設けています。博士前期課程では12科目を設け、関連の深い諸科学について理解を深めるとともに、研究力を高めます。博士後期課程では、6科目の中にインタープロフェッショナルワーク関連の2科目を配置し、保健医療福祉の連携をはかり総合的なチームアプローチの推進に資する研究・教育を展開していくことで、実務者としての高度な知識と指導力を養います。

博士前期課程

- キリスト教倫理特論
- 健康増進・医療経済政策特論
- 実験的研究法
- 人体構造・機能学特論
- 教育方法学特論
- マネジメント論
- 保健医療倫理学特論
- 臨床疫学特論-EBM実践入門-
- 社会調査特論
- 心理学特論
- 保健科学英語特論
- 教育工学特論

博士後期課程

- インタープロフェッショナルワーク特講(必修)
- インタープロフェッショナルワーク演習
- リーダーシップ特講
- 保健科学研究方法特講 I
- 保健科学研究方法特講 II
- 保健科学英語特講

いつでも利用できる大学院生研究室・図書館

5号館5・6階を大学院エリアとし、ゼミ室のほか、研究室・談話室・休憩室などの施設・設備が整っています。特に大学院生研究室は24時間セキュリティシステムに守られ、平日夜間や休日を問わず、安全かつ快適な環境で自由に学修・研究することができます。

図書館も5号館にあり、大学院生は図書館閉館時でも必要に応じて図書館に入退出し、資料閲覧、図書の貸出、文献複写等の利用ができます。また、図書館の機能を十分に活用できるように、各データベースの講習会を開催。約12万冊の図書と約4千種の雑誌を所蔵しています。

短期大学等を卒業して学士の学位を取得していない方が大学院で学べるよう、また、関心のある大学院科目を受講できるよう制度を設け、学ぶ意欲をサポートしています。

入学資格 審査	学士の学位を取得していない方で、修士の学位を取りたいと考えている方を対象とした制度です。短期大学、専門学校等を卒業後、他の教育機関での学修経験や一定の臨床経験、あるいは教職経験を経て業績等がある方には、学士の学位がなくても入学資格審査を受けて受験の機会が得られる制度があります。この制度を利用して受験する場合は、出願前に入学資格審査が必要になります。
科目等履修	大学院入学資格のある方を対象に大学院の正規の授業を開放しています。科目等履修生は講義科目の中から履修科目を選択できます。受講して修得した科目の単位は、入学後に、修了に必要な単位の一部として認定されます。入学前に本学の科目等履修生として修得した単位は、正規学生として入学した後、既修得単位として認定しています。また、その単位修得に要した履修料を授業料から減免します。
研究生制度	大学院入学資格のある方を対象に、興味のある研究分野の教員と共に1年間研究に携わることができる制度です。大学院での学修を始める前に、本学での研究内容を知ることができます。
院生研究費	大学院生には博士前期課程、博士後期課程とも在学中に使用できる研究費があります。

看護学研究科

concept 1 複雑・多様な医療ニーズに対応できる、質の高い看護専門職者の育成

concept 2 社会の要請に対応した6つの高度実践看護師教育課程の設定

concept 3 多職種連携・協働を基盤とする高度専門職業人の育成

研究科長メッセージ



研究科長 檜原 理恵

多様な社会的ニーズに応える高度実践看護職の育成

看護学研究科は建学の精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」に基づき、社会の変化に伴う高度かつ専門的な看護実践者の育成をめざしています。日々の看護実践や教育活動の中で生まれた気づきや課題について、論理的な思考を持ち、他者と協働して学修することができます。本学では長期履修制度や科目履修制度を設け、在職しながら学びを継続する環境を整えています。大学院への進学は、自分自身の看護への大きなチャレンジです。2024年度には住民の健康を守るための医療提供の不足という課題に対応するための看護人材を育成するため、プライマリケアNP教育課程を開設する予定です。

教育課程

博士前期課程

- 標準修業年限／2年（長期在学コースの場合3年）
- 学位の種類／修士（看護学）

科目		区分	単位数	
共通科目	12科目から選択 (P5)	3研究科共通	修士論文コース	高度実践看護コース
基盤科目A	看護理論※、看護研究方法※、看護倫理、看護管理論、看護政策論、看護コンサルテーション論 ※必修科目	看護学研究科共通	10単位以上	14単位以上
基盤科目B	フィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学			
専門科目	専攻する領域の特論、特論演習、特論実習	各領域	8単位以上	24単位以上
	専攻する領域以外の特論、または看護技術開発		2単位以上	
	特別研究（修士論文コース）、課題研究（高度実践看護コース）	個別課題	8単位	
修了に必要な単位数			32単位以上	38単位以上

高度実践看護師になるためには以下の3つをすべて満たしている必要があります。

- ◆ 高度実践看護師教育課程をもつ大学院博士前期課程（修士課程）で、必要な単位を習得して修了していること。
- ◆ 看護実務経験が5年以上あり、そのうちの3年以上は専門とする特定分野の経験であること。
- ◆ 専門看護師は、日本看護協会で行う、認定試験に合格すること。認定後も、5年ごとに更新審査を受ける必要があります。

高度実践看護コースを設置する領域

在宅看護学領域	老年看護学領域
慢性看護学領域	急性看護学領域
がん看護学領域	小児看護学領域

認定看護管理者

博士前期課程看護管理学領域を修了し、日本看護協会の認定審査に合格することで、「認定看護管理者」の資格を得ることができます。本学では、看護管理学の基本概念である「看護サービス」「組織」「環境」を結ぶ「管理過程」「経営管理」に関する理論的な探求を通して、革新的かつ創造的な看護管理者や看護管理学研究者の育成を目的としています。

認定看護管理者とは：看護師として5年以上の実践経験（そのうち3年以上は看護師長相当以上の看護管理の経験）をもち、日本看護協会が定める465時間以上の認定看護管理者教育を修めるか、大学院で看護管理に関する単位を修得して博士前期課程（修士課程）を修了した後に、認定看護管理者認定審査に合格することで取得できる資格です。

博士後期課程

- 標準修業年限／3年(長期在学コースの場合4年)
- 学位の種類／博士(看護学)

	科目	区分	単位数
共通科目	6科目から選択(P5)	3研究科共通	5単位以上
専門科目	専攻する領域の特講、特講演習	各領域	3単位以上
	特別研究	個別課題	6単位
修了に必要な単位数			14単位以上

領域の紹介

■ 基礎看護学領域

看護活動の拡大に伴う安全で質の高い看護ニーズに応えるために、基盤となる理論と技術開発を主体的に学修します。基礎看護学に関する理論を精査・探究し、看護の対象となる人々の関係性や看護実践技術の構造を検証し、看護基礎教育および看護実践技術に関する評価手法とその開発を自立して研究できる能力を修得します。

■ 地域看護学領域

公衆衛生看護学や学校保健の立場から、地域包括ケアシステムを支え、発展させ、地域で暮らす人々の健康や社会経済環境及び生活の質を高める実践力をもつ看護職の育成を目標とします。博士前期課程では、論理的な思考や深い知識、研究法を学び、高度な実践者の育成をめざします。博士後期課程では、発見した課題を研究し、独立して研究できる人材の育成をめざします。

■ 老年看護学領域

高齢社会の問題を広い視野でとらえ、高齢者の生活と健康を支える看護の専門性の拡大、さらなる発展を追求するために必要な、知識・技術・研究技法を修得することを目的とします。博士後期課程では、研究プロセス、研究成果を通して高齢者ケアの発展に寄与することをめざします。

■ 慢性看護学領域

慢性的な病気や障害とともに生活する人々に対して、質の高い看護ケアを提供するための知識・技術を修得することを目的とします。博士前期課程では、患者・家族の抱える問題を多面的に迫り高度専門的かつ倫理的な看護実践能力を修得します。博士後期課程では、複雑多様な問題状況の概念化、ケアモデルの開発をめざします。

■ 看護管理学領域

基礎学習として、一般システムの理論や看護システムの特徴および構成要素を修得します。それらの学習を基に、看護システム(医療システムにおける看護システム、看護サービスの質向上、看護提供システムなど)および看護システムを構成する各要素について調査・分析・検討を行い、論文を作成します。

■ 在宅看護学領域 ※1

博士前期課程では、病いや障がいがあっても、人々が望む環境で自分らしく暮らしていく営みを支える看護実践を探究することを目的としています。博士後期課程では、在宅看護学の学術領域や実践領域に資する独創性ある研究課題に取り組み、課題解決のための理論や方法を身につけ、研究者として自立できる研究能力の修得をめざします。

■ 精神看護学領域

本領域ではすべての年齢の人々の精神的健康の増進や精神疾患を抱える人々、精神看護のアプローチを必要とする生活者への支援を検討します。博士前期課程では高度専門的知識を用いて人々の精神的健康を促進する能力を修得します。

■ 急性看護学領域

博士前期課程では、周術期や生命の危機的状態にある患者・家族が直面する課題を多面的に迫るとともに、質の高い急性期看護を提供するための高度専門的かつ倫理的な看護実践能力を修得します。博士後期課程では、クリティカルケアの現場で提供される看護を説明する理論の開発やよりよい看護方法の開発をめざします。

※1 博士後期課程は地域看護学

■がん看護学領域

博士前期課程では、がん患者・家族のもつさまざまな問題を身体・心理・社会・霊的に広く深く探究し、QOLを高める高度専門的かつ倫理的な看護実践能力を修得します。博士後期課程では、がん患者の複雑多様に絡み合ったトータルペインや倫理的問題を多角的に解明し、問題解決のための理論や方法論、技法の開発をめざします。

■助産学領域 ※2

博士前期課程では、親の自立(自律)を通して、健全な子どもたちを次世代に繋げるために、助産を取り巻く現況と課題にかかわる知識を深め、助産師の責任・役割・専門性を探求し、研究の基礎的能力を修得します。博士後期課程では、女性がその人らしく生きるための生と性にかかわる多様性の探求と専門領域における課題解決のための理論や方法を身につけ、自立して研究を行える能力を修得します。

■ウィメンズ・ヘルス看護学領域 ※2

博士前期課程では、女性の健康問題やハイリスク周産期ケアの概念・理論に関する理解を深め、看護実践における研究課題に取り組むことを通して、基礎的研究能力を修得します。博士後期課程では、専門領域にかかわる高度な知識を深め、課題解決のための理論構築や技術開発の方法を身につけ、自立して研究を行える能力を修得します。

■小児看護学領域

博士前期課程では、成長・発達途上の子どもを理解し、子どもと親・家族の健康を増進するための看護援助を探求することを目的とします。博士後期課程では、さまざまな健康障害・障がいをもつ子どもと親・家族の抱える複雑多様な問題解決のための理論や方法などを身につけ、自立して研究できる能力の修得をめざします。

※2 博士後期課程はリプロダクティブ・ヘルス看護学

教員紹介

※2023年5月時点の在籍教員と研究内容を紹介しています。2024年度は変更となる場合があります。

- | | | | | |
|--------------------|----------|----------|----------|-----------------|
| ■基礎看護学領域 | ■看護管理学領域 | ■地域看護学領域 | ■在宅看護学領域 | ■老年看護学領域 |
| ■精神看護学領域 | ■慢性看護学領域 | ■急性看護学領域 | ■がん看護学領域 | ■ウィメンズ・ヘルス看護学領域 |
| ■リプロダクティブ・ヘルス看護学領域 | ■助産学領域 | ■小児看護学領域 | | |

安田 智洋 教授 博士(理学) Yasuda Tomohiro



研究キーワード
健康づくり、運動医科学
研究テーマ
健康長寿社会実現に向けた健康医療：予防から治療まで

佐久間 佐織 教授 博士(看護学) Sakuma Saori



研究キーワード
看護技術、技術教育
研究テーマ
看護技術の熟達プロセスとその支援についての探求

炭谷 正太郎 准教授 博士(看護学) Sumitani Shotaro



研究キーワード
看護技術、輸液、血管確保
研究テーマ
輸液や血管確保等、看護技術に関する研究

檜原 理恵 教授 博士(看護学) Kashihara Rie



研究キーワード
看護管理、リーダーシップ
研究テーマ
看護管理者のサーバントリーダーシップの獲得

鶴田 恵子 教授 修士(看護学) Tsuruta Keiko



研究キーワード
看護管理過程、専門看護師
研究テーマ
大学院を修了した看護管理者の管理実践

三輪 真知子 教授 博士(学術) Miwa Machiko



研究キーワード
行政、保健師、協働、地域づくり
研究テーマ
自治体住民と行政が協働した地域づくりに関する研究

西川 浩昭 教授 博士(保健学) Nishikawa Hiroaki



研究キーワード
健康状態の定量的評価法の検討
研究テーマ
健康状態を定量的に評価し、関連要因の影響度を明らかにする

池永 理恵子 教授 博士(保健看護学) Ikenaga Rieko



研究キーワード
発達障害、養護教諭の支援
研究テーマ
発達障害のある子どもへの養護教諭の支援に関する研究

江口 晶子 准教授 博士(看護学) Eguchi Akiko



研究キーワード
親子保健、保健師、発達障害
研究テーマ
発達障害児をもつ保護者への保健師の支援技術に関する研究

酒井 昌子 教授 博士(看護学) Sakai Masako



研究キーワード
訪問看護、終末期ケア、意思決定支援
研究テーマ
在宅非がん終末期患者の看護、在宅ケアアウトカムに関する研究

山村 江美子 教授 博士(看護学) Yamamura Emiko



研究キーワード
在宅療養者・家族への家族看護
研究テーマ
在宅で看取りを行う家族に対する家族看護の探求

山田 紀代美 教授 博士(医学) Yamada Kiyomi



研究キーワード
認知症高齢者、加齢性難聴、就業高齢者、転倒事故
研究テーマ
加齢性難聴あるいは認知症高齢者の看護に関する研究

木村 暢男 准教授 博士(介護福祉、ケアマネジメント学) Kimura Nobuo



研究キーワード
認知症ケア、ケアマネジメント
研究テーマ
地域包括ケアシステムにおける認知症高齢者の生活支援の研究

入江 拓 教授 修士(人間行動学、学術) Irie Taku



研究キーワード
社会的養護、里親、メンタルヘルス
研究テーマ
要保護児童の養育者のメンタルヘルスと支援システムの研究

小平 朋江 准教授 博士(看護学) Kodaira Tomoe



研究キーワード
統合失調症をもつ人、語り
研究テーマ
統合失調症をもつ人の語りを手がかりにした研究

清水 隆裕 准教授 博士(看護学) Shimizu Takahiro



研究キーワード
感情体験、看護対応、看護チーム
研究テーマ
精神科看護師チームの機能支援に関する研究

河口 てる子 教授 博士(保健学) Kawaguchi Teruko



研究キーワード
患者教育、患者心理、概念化
研究テーマ
看護における教育的関わりの概念化、理論構築、尺度化

乾 友紀 准教授 博士(看護学) Inui Yuki



研究キーワード
急性期看護、合併症、予防
研究テーマ
急性期患者の合併症を予防するための看護介入に関する研究

大石 ふみ子 教授 博士(看護学) Oishi Fumiko



研究キーワード
がん看護、がん治療の有害事象
研究テーマ
がん患者・家族の心理的ケア、治療の有害事象に関する研究

大山 末美 教授 博士(看護学) Oyama Suemi



研究キーワード
がん看護、緩和ケア
研究テーマ
がん患者の緩和ケア、心理的ケアに関する研究

藤浪 千種 准教授 博士(看護学) Fujinami Chigusa



研究キーワード
がん看護、チーム医療
研究テーマ
がん患者を対象とした看護方法論と
チーム医療に関する研究

藤本 栄子 教授 博士(看護学) Fujimoto Eiko



研究キーワード
早産児、母子関係、母乳育児支援
研究テーマ
ハイリスク新生児と母親への周産期・
育児期を通じた支援

熊澤 武志 教授 博士(医学) Kumazawa Takeshi



研究キーワード
バイオマーカー、母乳、質量分析
研究テーマ
母乳に含まれる新規バイオマー
カーの検索と分子機構の解明

久保田 君枝 教授 博士(医学) Kubota Kimie



研究キーワード
低出生体重児、母体栄養、体組成
研究テーマ
妊婦の栄養と母児の体重に関する
研究

市江 和子 教授 博士(医学) Ichie Kazuko



研究キーワード
小児看護学・重症心身障がい児
研究テーマ
小児看護全般、成長障害児・重症
心障害児と親・家族への支援

宮谷 恵 教授 博士(看護学) Miyatani Megumi



研究キーワード
医療的ケア、在宅療養、家族支援
研究テーマ
医療的ケアを必要とする子どもと
家族への支援に関する研究

修了生の研究テーマ

博士前期課程

- 助産師出向支援事業における出向元となる病棟看護師長の人的資源管理プロセス
- 看護師の専門職的自律性と職務満足度に影響を与える専門看護師の実践介入
- 在宅看護専門看護師である訪問看護管理者の実践から捉えた訪問看護管理者の役割
- 就労を継続している潰瘍性大腸炎患者の生活調整
- 直腸がん手術後患者の排便障害に対するストレス・コーピング—退院後3か月までの経時的変化より—
- 在日ブラジル人産婦への助産ケア—助産師への聞き取りから—
- 訪問看護師と医療的ケアが必要な障害児の母親との関係づくり
- 初回手術を経験し初めて退院にいたった先天性心疾患の子どもをもつ父親のレジリエンス

博士後期課程

- 精神科カンファレンスにおいてメンバーの感情表出を促すマッピングシート活用プログラムの作成と有用性の検証—境界性パーソナリティ障害(BPD)の問題行動に焦点を当てた場合—
- 終末期がん患者の療養場所選択における看護アドボカシー実践モデルの開発と評価
- 非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)患者のヘルスリテラシーに着目したセルフケア支援モデルの作成
- 出生体重に関連する妊娠前後の影響因子の探索研究—栄養と健康意識、体組成、握力からの分析—
- NICUから在宅移行期における母親の医療的ケア児に対するヘルスリテラシー展開への支援モデル

修了生の声

大学院での学びは看護師としての自分を見つめ直す時間となりました

私は尊敬する指導者のもとで看護管理について学びたいと思い進学を決めました。大学院での3年間は看護管理について学ぶのみでなく、看護師としての自分を見つめ直す時間となりました。今後は、看護師が誇りとやりがいを持ち働くことができる環境作りに貢献したいと思っています。



博士前期課程

丸山 和真さん

2021年度 修了
勤務先：
聖隷三方原病院 看護部 画像外来

議論を惜しまないという教えから論理的思考力を培いました

研究能力向上のため大学院進学を決意しました。大学院では、議論を惜しまないという教えを受け、事象を多面的に捉えた上で、論旨の一貫性をもたせ統合する論理的思考力を培いました。今後はこの経験を活かし、国際学会にて、日本の在宅移行支援の現状を各国の研究者と議論したいと考えております。



博士後期課程

室加 千佳さん

2021年度 修了
勤務先：
聖隷クリストファー大学
看護学部(母性看護学領域)

リハビリテーション科学研究科

concept
1

21世紀リハビリテーション
科学理論・技術の展開

concept
2

現代社会の要請に応える
優れた授業科目の提供

concept
3

保健医療福祉の連携・協働を
実現する取り組み

研究科長メッセージ



研究科長 柴本 勇

科学的思考力と実践力を備えた高度専門職者の育成

リハビリテーション科学研究科では、卓越した科学的思考力や実践力を兼ね備え、新たなる知の創造をし続ける専門職者を育成します。博士前期課程では、高度な専門知識、臨床力、研究力、教育力を養います。長崎大学大学院医歯薬学総合研究科との単位互換協定により幅広い専門教育が受けられます。博士後期課程では、自立した研究遂行力と高い学識を養います。高い倫理観と使命感をもち、リハビリテーション科学分野をリードする専門職者を育成します。

教育課程

博士前期課程

- 標準修業年限／2年（長期在学コースの場合3年）
- 学位の種類／修士（リハビリテーション科学）

	科目	区分	単位数
共通科目	12科目から選択（P5） ※教育学コース履修推奨科目：教育方法学特論、教育工学特論	3研究科共通	12単位以上
基盤科目	リハビリテーション研究入門、内部障害リハビリテーション学 生活環境リハビリテーション学、嚥下障害リハビリテーション学 インストラクショナルデザイン特論※ リハビリテーション教育演習※ ※教育学コース推奨科目	リハビリテーション 科学研究科 共通	
専門科目	専攻する領域の特論、特論演習	各領域	6単位
	専攻する領域以外の特論		4単位
	特別研究、課題研究（教育学コース）	個別課題	8単位
修了に必要な単位数			30単位以上

リハビリテーション教育学コース

本コースでは、リハビリテーション教育に必要な教育学の知識や技能を修得する科目を開講しています。課題研究を設定するなど実務重視のカリキュラムです。修了時には、修士号（リハビリテーション科学）が取得できます。

- リハビリテーション教育に携わっている方
- 教育の視点を理解したい管理職の方
- 養成校の教育職をめざしている方

博士後期課程

- 標準修業年限／3年（長期在学コースの場合4年）
- 学位の種類／博士（リハビリテーション科学）

	科目	区分	単位数
共通科目	6科目から選択（P5）	3研究科共通	5単位以上
専門科目	専攻する領域の特講、特講演習	各領域	3単位
	特別研究	個別課題	6単位
修了に必要な単位数			14単位

■ 理学療法科学領域

解剖学、生理学、神経科学、運動学および運動生理学などの理学療法学分野の基本となる課題、理学療法士の新しい教育手法、教育効果を証明するための科学的な検証方法を学修します。博士前期課程の講義では、研究機器の測定方法、データの読み方および解析手法など、実験的研究に必要な技術について学修します。博士後期課程では、博士前期課程を踏まえ、国際社会でも活躍できる研究者ならびに高度専門職者を養成することをめざします。

■ 作業療法科学領域

作業療法は、「作業」が「人間の健康に寄与する」という信念から発展した分野です。この領域では「人－作業－環境」の関係を、臨床とも結びつけて意味、機能、形態の側面から研究します。博士前期課程の講義では、作業療法の歴史的変遷とこれまで作業療法が到達した理論や哲学的背景について学びます。研究では各院生の興味や周辺のテーマについて文献レビューから始め、研究計画書作成、データ収集、修士論文執筆へと進めます。博士後期課程では、博士前期課程で述べたことをさらにさらに深く探究し博士論文を完成させます。

■ 言語聴覚障害学領域

博士前期課程では、失語症、高次脳機能障害、聴覚障害に対する基礎研究や評価、検査法の研究開発を行います。また、さまざまな要因によって起こる障害に対する病態解析、さらに回復のメカニズムと言語聴覚療法（治療アプローチ）について研究します。科学的な視点を持ちながら、人の心に寄り添った治療法を開発実践できる人材の育成をめざします。博士後期課程では、博士前期課程で学んだ最新知見を収集した上で分析し、新たな理論や臨床技術を開発します。

■ 理学療法開発学領域

神経系、運動器系、内部系障害の理学療法について、科学的理論を背景とする検証技術を学修し、新たな理学療法の評価および治療法を開発する方法を学修します。博士前期課程の講義では、質的および量的研究、ケーススタディ、観察および介入研究などの臨床研究に必要な研究方法、効果検証を学修します。博士後期課程では、博士前期課程を踏まえ、国際社会でも活躍できる研究者ならびに高度専門職者を養成することをめざします。

■ 作業療法開発学領域

作業療法に関する最新の研究動向に触れ、臨床への応用と解決すべき課題について検討します。研究対象は個人・家族・地域など、専門領域やテーマに応じてさまざまな設定が考えられるため、まずは関連領域の研究論文のレビューを通じて、現時点の到達点の確認、未解決の課題の発見をめざします。そして、研究疑問をどのように検証可能な形で表現するか、データに基づく分析とはどのようなものか、その結果をどのように読み解くのかなど、臨床研究の基本的要素を理解します。博士後期課程では、博士前期課程で学んだ研究方法論を知識基盤とし、実践的課題の吟味と解決方法を探求します。

■ 摂食嚥下障害学領域

博士前期課程では、摂食嚥下障害学と発声発語障害学に関する最新知見や理論を学びます。摂食嚥下障害学と発声発語障害学に含まれる障害は、音声障害、発話障害、流暢性障害、摂食嚥下障害があり、いずれも多分野との共同研究や共同活動を通じて学際的な思考力を養います。同時に高度な臨床力を学びます。博士後期課程では、摂食嚥下障害や発声発語障害の評価治療法の開発、支援方法の開発、理論構築に向けた研究を行い、新たな知の創造へ貢献するとともにそれを担う研究者、臨床家、教育者を育成します。

教員紹介

※2023年5月時点の在籍教員と研究内容を紹介しています。2024年度は変更となる場合があります。

理学療法科学領域
言語聴覚障害学領域

理学療法開発学領域
摂食嚥下障害学領域

作業療法科学領域

作業療法開発学領域

金原 一宏 教授 博士
(リハビリテーション科学) Kimpara Kazuhiro



研究キーワード
ペインリハビリテーション
研究テーマ
骨関節・神経疾患など慢性疼痛患者の評価・治療に関する研究

矢倉 千昭 教授 博士(医学) Yagura Chiaki



研究キーワード
介護予防、安全衛生、生活習慣
研究テーマ
高齢者の介護予防、企業の安全衛生管理、生活習慣病の予防

津森 伸一 教授 博士(工学) Tsumori Shinichi



研究キーワード
学習支援、理解状況推定
研究テーマ
物理リメディアル教育用の自学自習支援システムの開発

根地嶋 誠 准教授 博士
(リハビリテーション科学) Nejishima Makoto



研究キーワード
運動器、成長期、スポーツ
研究テーマ
運動器疾患やスポーツ傷害の発生メカニズム・予防等の研究

矢部 広樹 准教授 博士
(リハビリテーション科学) Yabe Hiroki



研究キーワード
腎臓リハビリテーション
研究テーマ
慢性腎不全や血液透析など生活期の内部障害に対する理学療法

大城 昌平 教授 博士(医学) Ohgi Shohei



研究キーワード
人間発達学、神経行動発達学
研究テーマ
新生児・乳幼児の発達と発達ケア及びリハビリテーション

有菌 信一 教授 博士(健康科学) Arizono Shinichi



研究キーワード
呼吸心臓リハビリテーション
研究テーマ
呼吸心臓リハビリテーション、集中治療領域、慢性疼痛

吉本 好延 教授 博士(学術) Yoshimoto Yoshinobu



研究キーワード
転倒・身体活動・行動変容
研究テーマ
要介護高齢者の介護予防を目的とした学際的研究

俵 祐一 准教授 博士(医学) Tawara Yuichi



研究キーワード
呼吸リハビリテーション領域
研究テーマ
呼吸器疾患等に対するリハビリテーションおよび疫学的研究

伊藤 信寿 教授 博士(学校教育学) Ito Nobuhisa



研究キーワード
発達支援、特別支援教育
研究テーマ
支援を必要とする子どもたちと支援者に対する実践と研究

藤田 さより 准教授 博士
(リハビリテーション科学) Fujita Sayori



研究キーワード
メンタルヘルス 就労支援
研究テーマ
メンタルヘルスや障害者の就労支援に関する研究

新宮 尚人 教授 博士(保健学) Shingu Naohito



研究キーワード
作業活動、自立支援、再発予防
研究テーマ
作業活動を用いた精神障害者の自立支援・再発予防

泉 良太 教授 博士(保健学) Izumi Ryota



研究キーワード
QOL、臨床研究、臨床教育
研究テーマ
リハビリテーション領域における健康関連QOLの検証

小坂 美鶴 教授 博士(感覚矯正学) Kosaka Mitsuru



研究キーワード
定型発達児、言語障害児、言語発達
研究テーマ
言語発達障害児の語彙・統語・談話の発達と評価に関する研究

谷 哲夫 教授 博士(保健学) Tani Tetsuo



研究キーワード
失語症、改善要因、吃音、治療法
研究テーマ
失語症の予後予測と改善要因、吃音
児の自己肯定感と吃音の進展

大原 重洋 教授 博士 (リハビリテーション科学) Ohara Shigehiro



研究キーワード
聴覚障害、ナラティブ、補聴器
研究テーマ
ナラティブのマクロ構造の機序の
解明と、支援法の開発

柴本 勇 教授 博士(学術) Shibamoto Isamu



研究キーワード
摂食嚥下障害、人工知能(AI)
研究テーマ
摂食時の大脳制御と口腔運動機構
の解析とリハビリテーション

佐藤 豊展 准教授 博士 (リハビリテーション科学) Sato Atsunobu



研究キーワード
摂食嚥下リハビリテーション
研究テーマ
摂食嚥下障害の評価・訓練法の
開発および予防に関する研究

修士生の研究テーマ

博士前期課程
博士後期課程

- 認知症を呈する大腿骨近位部骨折術後患者における痛みの感覚評価に関する研究
- 回復期脳卒中患者のサルコペニアと身体機能の関連性の検証
- 視覚障害乳幼児の子育て支援における作業療法士の介入の現状と役割
- 回復期リハビリテーション病棟入院患者の不安が健康関連QOLとADLに与える影響—前向きコホート研究—
- 表面温度が異なる食物摂取時の口腔運動の相違
- 回復期リハビリテーションにおける痛み体験の持続した患者特性に関する研究
- 妊娠後期の妊婦に対する「インターネットプラス健康教育プログラム」の開発とその効果に関する研究
- 課題遂行によるせん妄の早期発見とせん妄時の脳内ネットワークのメカニズムに関する研究
- フローチャートを用いて分類した急性期病院入院中嚥下障害患者の嚥下造影検査指標分析

修士生の声

大学院の学びで培った知識を 患者や対象者に還元していきたいです

大学院では自身の研究テーマについて学びを深めるとともに、指導教員や他の院生の研究活動に参加し、幅広い知識を培うことができました。今後は大学院での学びで培った知識を患者や対象者に還元していくとともに、更なるエビデンスの構築のために研究活動を進めていきたいと思っています。



博士前期課程

亀山 裕斗さん
2022年度 修了
勤務先: 浜松市リハビリテーション病院

教授や他の院生との研究に関する議論によって 思考力を養うことができました

大学院では自分の研究を行うだけでなく、指導教授や他の院生との研究に関する議論を通して研究の楽しさと難しさを学び、批判的吟味する思考や物事の本質を捉える思考を養えたと思います。今後は研究により得られたエビデンスを臨床で実践し、患者や対象者の利益を追求していきたいと思っています。



博士後期課程

芦澤 遼太さん
2021年度 修了
勤務先:
聖隷三方原病院

日本でのかけがえない学びと経験

この度の留学では、学内での授業やゼミの他、関連病院等で日本の先端の産科・周産期医療を学びました。研究でも、教授の指導や他の教員・院生とも議論を重ね、創造的かつ科学的な思考、表現力を身につけて、妊婦のオンライン教育プログラムの開発という研究成果を示すことができました。この学びと経験を生かし、中国の産科・周産期医療及び看護学の発展に貢献します。



博士後期課程
(外国人留学生)

胡 穎(HU YING)さん
2022年度 修了
勤務先: Chongqing City
Management College
(重庆城市管理职业学院)

社会福祉学研究科

concept
1

社会的ニーズの変化に対応し
高度な知識と広範な視点をもつ
社会福祉専門職の必要性

concept
2

保健医療福祉の融合と
連携の実現をめざす

研究科長メッセージ



研究科長 川向 雅弘

現実の社会福祉課題に応える高度専門職者の育成

社会福祉学は「実践の学」といわれています。社会福祉学研究科では、社会福祉を科学的に学ぶための鋭敏な時代感覚、社会問題への深い洞察力を養い、現実の社会福祉課題の本質に切り込んでいく力を身につけることを目的としています。博士前期課程では、多様化する社会福祉課題に対応できる高度専門職者の育成を、博士後期課程では、専門領域の先端的研究動向を展望し、社会の要請に応える研究能力を養うことをめざしています。

教育課程

今日の生活問題は少子・高齢化の進展と相まって、生活・社会環境が複雑化し、社会福祉ニーズが高まっています。生活相談や自立支援、福祉のまちづくり、政策・制度の改善等において、専門的で指導的な役割を果たせる高度な社会福祉専門職の育成が急務です。社会福祉学研究科では、複雑化し多様化した社会福祉課題に応える高度な専門職と研究者養成の教育課程を重視しています。

博士前期課程

- 標準修業年限／2年(長期在学コースの場合3年)
- 学位の種類／修士(社会福祉学)

科目		区分	単位数
共通科目	12科目から選択(P5)	3研究科共通	必修6単位と、 共通科目・基盤科目 から3科目6単位 以上
基盤科目	社会福祉原論※、ソーシャルワーク論※、福祉思想 社会福祉政策論、社会福祉実践研究※、社会福祉実習 ※必修科目	社会福祉学研究科 共通	
専門科目	専攻する領域の特論、特論演習	各領域	6単位
	特別研究	個別課題	8単位
修了に必要な単位数			30単位以上

博士後期課程

- 標準修業年限／3年(長期在学コースの場合4年)
- 学位の種類／博士(社会福祉学)

科目		区分	単位数
共通科目	6科目から選択(P5)	3研究科共通	5単位以上
専門科目	専攻する領域の特講、特講演習	各領域	3単位
	特別研究	個別課題	6単位
修了に必要な単位数			14単位

社会福祉学研究科 学びの特長

社会福祉学研究科の特長は、大学院担当教員の豊富な実践経験を生かした研究指導が展開される点です。大学院生が身を置く実践現場の「臨場感」や「ことば(実践価値に対する共通言語)」を理解できることが、実践理論を研究するにあたって、大学院生との間に研究上の信頼関係をもたらします。また、複数教員による多角的な視点を重視し、大学院生が安心して研究できるように、複数指導教員体制を充実させる取り組みを進めています。

領域の紹介

■ 社会福祉・ソーシャルワーク領域

社会福祉の歴史と現状、さらに、社会福祉専門職の成立にみる社会背景や動向等を分析・考察し、社会福祉とそれを実践する専門職の機能と役割、特徴について研究します。また、社会福祉実践の基盤となるソーシャルワークの価値・知識・方法を、ミクロ・メゾ・マクロレベルにわたって体系的に理解した上で、現代社会におけるソーシャルワークの実践課題と展開方法について探求します。

■ 介護福祉領域 ※

介護福祉学の構築に向け、介護福祉実践の歴史を紐解くことや、介護実践及び思想、国内外の研究動向を学び、社会的背景や研究方法、実践方法などについて検討、考察します。介護福祉は、制度や地域課題、利用者との社会関係の上に成り立つ専門職による支援であり、医療職らと協働するのが大きな特長です。これらを踏まえて、介護福祉の思想と方法論を探求します。

※博士後期課程は高齢者福祉

■ 子ども家庭福祉領域

子ども家庭福祉領域では、子どもや家庭が抱える問題と支援ニーズを理解し、適切な支援を行うための理論や技術について研究します。特に、保健・医療・教育等の他領域の知識を含めた総合的な視点から、子どもの権利に関する条約を基に子どもの最善の利益を実現させていくための保護者や国及び地方公共団体の役割を明らかにし、子どもと家庭を地域で支える仕組みの理論化と具体的実践方法を探求します。

教員紹介

※2023年5月時点の在籍教員と研究内容を紹介しています。2024年度は変更となる場合があります。

■ 社会福祉・ソーシャルワーク領域

■ 介護福祉領域

■ 高齢者福祉領域

■ 子ども家庭福祉領域

川向 雅弘 教授 修士(社会福祉学) Kawamukai Masahiro



研究キーワード
メゾレベルのソーシャルワーク
研究テーマ
「地域を基盤としたソーシャルワーク」
の実践価値の研究

佐藤 順子 教授 修士(社会福祉学) Sato Junko



研究キーワード
地域福祉の主体・対象・方法
研究テーマ
住民主体の地域福祉組織とその
支援のあり方に関する研究

福田 俊子 教授 博士(人間福祉学) Fukuda Toshiko



研究キーワード
スーパービジョン、人材養成
研究テーマ
社会福祉専門職の自己生成に関
する研究

坂本 道子 教授 博士(社会福祉学) Sakamoto Michiko



研究キーワード
社会事業史、キリスト教社会福祉
研究テーマ
福祉従事者(特にディアコニッセ)
の人物史および思想・哲学

大場 義貴 教授 博士(小児発達学) Oba Yoshitaka



研究キーワード
子ども・若者のメンタルヘルス
研究テーマ
不登校や神経発達症、自殺やひき
こもりに関する社会疫学研究

佐々木 正和 准教授 修士(人間福祉学) Sasaki Masakazu



研究キーワード
精神障がい者への権利擁護
研究テーマ
精神障がい者の人権擁護、地域
移行、生活支援の研究

野田 由佳里教授 博士(社会福祉学) Noda Yukari



研究キーワード
外国人介護労働者・認定介護福祉士
研究テーマ
介護職の継続就労、有能感や所属意識をもたらす意識変容

篠崎 良勝准教授 修士(教育学) Shinozaki Yoshikatsu



研究キーワード
観察・ハラスメント・人材育成
研究テーマ
介護福祉職における専門職の人材育成プログラムの開発

藤田 美枝子教授 博士(臨床心理学) Fujita Mieko



研究キーワード
子ども虐待の予防・子どもの貧困
研究テーマ
要支援の子どもと家庭を地域で支える仕組みに関する研究

太田 雅子教授 修士(教育学) Ota Masako



研究キーワード
向社会性・自己肯定感の育ち
研究テーマ
アクションリサーチによる向社会性を育む保育・教育の方法

泉谷 朋子准教授 博士(社会福祉学) Izumiya Tomoko



研究キーワード
ひとり親家庭、保護者支援
研究テーマ
養育に課題をかかえる保護者への支援に関する研究

修了生の研究テーマ

博士前期課程

- 医療ソーシャルワーカーの実践能力の変容と自己覚知の関連に関する研究
- 介護予防・生活支援サービス事業における「B型サービス」推進上の課題に関する研究
- 小規模多機能居宅介護における医療依存度の高い利用者の受け入れの現状と課題
- 介護労働者の賃金及び職務内容が就労継続意思に及ぼす影響—介護老人福祉施設の調査から—
- 保育所におけるネグレクトケースへの支援に関する研究—現場保育士の保育ソーシャルワーク実践への意識化—
- A市の保育現場における巡回相談に関する研究—気になる子供と保護者への支援—

博士後期課程

- 身体障害者への職業リハビリテーションの実践史—戦後から高度経済成長期までに労災病院が果たした役割—
- 介護福祉士養成教育の現状と課題
- 先天性心疾患患者とその家族への医療ソーシャルワーク機能に関する研究—先天性心疾患分野の医療ソーシャルワーカーの実践からの考察—
- 学校現場における性的虐待への対応と役割についての研究—現状と課題、教職員の意識についての検討—

修了生の声

自分の考えを発言し、他の院生と議論をしながら
学びを深めていくことができました

学部を卒業する際から、「いずれは大学院に進学したい」と考えていました。転職をし、行政職員になってからは、行政の社会福祉士の在り方がわからず、苦しい日々が続きました。そんなときに佐藤教授より「先人の教えに触れること」の大切さを教えていただき、進学を決意しました。大学院では自分の考えを発言し、他の院生と議論をしながら、学びを深めていくことができました。活躍する場所は違っても、一人ではない。それぞれの場所でみんな頑張っているのだと認識することができ、とても心強く思いました。これからは大学院での学びを生かし、湖西市のみなさんにとって、より暮らしやすいまちになるよう、一端を担っていきたいと考えています。



博士前期課程

都筑 万由美さん

2021年度 修了

勤務先：湖西市健康福祉部高齢者福祉課[主任社会福祉士]

研究の流れ

看…看護学

リ…リハビリテーション科学

社…社会福祉学

※アイコンがないところは全研究科対象

博士前期課程



○研究計画検討会を経て研究計画書を提出・承認後、倫理審査、研究、論文作成を行う。

博士後期課程



○研究計画検討会を経て研究計画書を提出・承認後、倫理審査、研究、論文作成を行う。

TOPICS

国際共同研究

本学は、国外10の高等教育機関と交流協定を締結しています。大学院では、交流協定校と人的交流に加え共同研究に力を入れ、国際社会に貢献できる研究者や高度専門職者の育成をめざしています。2018年度から、本学をハブとした将来の国際共同研究・国際共同活動を推進することを目的として「聖隷国際研究コンファレンス(Seirei International Research Conference)」を開催しています。交流協定校を中心に毎年多くの国々の研究者、学生、教育関係者が参加し、ネットワークを広げ、ディスカッションを通じて研究交流を深めています。本学の大学院生も英語による発表を行うことで、国内外の保健医療福祉・教育分野の専門職者・学生と互いの知識・知見・活動を共有し、意見交換を行う場を創出しています。

また、交流協定校等と意見交換を行う場として「グローバルパートナーズサミット」を設け、研究・教育交流を推進しています。国際交流担当の教職員が横のつながりを作り、連携を強め、今後の国際交流活動を発展するためのきっかけになることを期待しています。



開会式(オンライン開催)



プレゼンテーション

交流協定校はこちら▶



聖隷クリストファー大学同窓会 研究助成金(2022年度新設)

大学院生がより充実した研究を展開できる体制を整え、本学や保健医療福祉・教育の発展に寄与することを期待して研究助成金を支給しています。応募書類の提出、審査の上、採用者を決定します。

応募資格: 聖隷クリストファー大学大学院博士前期・後期課程に在籍する大学院生

助成金額: 1件あたり20万円(年度で3件まで、支給後3年以内に成果物等を提出)

※その他、採用には条件があります。詳細は「研究助成金募集要項」をご確認ください。

詳細はこちら▼



リカレント教育

聖隷クリストファー大学および大学院は、卒業生・修了生が保健医療福祉・教育の専門職者として活躍し続けるために一層専門性を向上させ、最新の知識・技術を身につけていく支援をしています。ホームページでは、どなたでもご参加いただける公開講座をはじめ、勉強会や研修会の案内を随時、掲載しています。

リカレント教育については
こちら▶



アクセス

🚌 JR浜松駅からバスでお越しの方

JR浜松駅北口バスターミナル、遠州鉄道バス15番のりば「聖隷三方原病院経由気賀・三ヶ日行」に乗車。
「聖隷三方原病院」下車(所要時間約45分)、徒歩約3分。

🚗 浜松西ICからお車でお越しの方

東名高速「浜松西IC」より浜松環状線を東へ約3km。
「葵町」交差点を左折し、北へ約2km。
「大谷バス停」交差点を右折し、東へ約1km。
「遠州栄光教会」交差点右折後すぐ。所要時間約10分。





シンボルマークの由来

外側の二重円は、最後の晩餐でキリストが弟子たちの足を洗った「たらい」を表現。内側の3つの円は、聖隷グループが使命とする医療(赤)、福祉(緑)、教育(青)を象徴。中央の十字架はキリスト教を示し、すべての事業がキリスト教会の中から始まったことを表しています。故アルバート・アットウェル博士(アメリカ人、1978～1981年聖隷学園に奉職)により、1980年に聖隷のシンボルとして考案されました。



聖隷クリストファー大学

SEIREI CHRISTOPHER UNIVERSITY

- 看護学部 [看護学科] ■ 助産学専攻科
- リハビリテーション学部 [理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科]
- 社会福祉学部 [社会福祉学科(ソーシャルワークコース・介護福祉コース・福祉心理コース)]
- 国際教育学部 [こども教育学科]
- 大学院【博士前期課程】【博士後期課程】
[看護学研究科/リハビリテーション科学研究科/社会福祉学研究科]



聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校



聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園

お問い合わせは【入試・広報センター】へ

〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町3453

【TEL】053-439-1401 【HP】<https://www.seirei.ac.jp>



2017年3月、(公財)大学基準協会の行う大学認証評価において、大学評価の基準に適合しているとの認定を受けました。